

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	よこね田んぼ観光地化事業 (よこね田んぼ保全委員会発足20周年記念事業)
事業主体 (連絡先)	よこね田んぼ保全委員会
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 イ 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ハード
総事業費	2,473,200 円

事業内容

- 1 遊歩道の整備
 - (1)よこね田んぼ展望台までの遊歩道の設置工事
- 2 よこね田んぼ保全委員会発足20周年記念イベント
 - (1)ウォーキングマップの作成
 - (2)稲刈り体験終了後、参加者で登り初めを行い、ドローンで記念撮影の実施
- 3 地域住民との共同作業
 - (1)大量の伐採木を地域住民で搬出し、薪、丸太階段として利用
 - (2)保全委員、民泊受入れ農家を主によこねガイド学習会の実施
 - (3)新NPO法人設立準備着手



【新設遊歩道から見晴台全景】

【目標・ねらい】

- ①展望台、棚田風景を活用した新たな観光展開の足掛けとなる事業を行う
- ②本会が発足20周年であることを皆が再確認し、地域の宝であることを改めて感じる機会にする
- ③よこね田んぼを後世に残すには、地域住民の協力が不可欠。また保全活動を維持していく為にも、観光や製造、販売が認められる団体である事が必要となる

事業効果

- ①遊歩道の設置により、よこね田んぼから直接見晴らし山に登ることができ、展望台へ行く人が増え、よこねでの滞在時間の延長また、ウォーキングコースや遠足、ランナーズヴィレッジコースなど観光方面への広がりを見せている。
- ②稲刈り体験イベントに合わせて遊歩道のお披露目をしたことで、本会が20周年を迎えたこと、本助成事業を受けた遊歩道の完成を広く周知でき、参加者、報道陣の増にもつながった。また参加オーナー家族からも、「来年もぜひ継続したい」「子供のためになりました」などの声があった。
- ③地区住民の協力の下、伐採木の搬出、薪利用、丸太階段への活用もでき、棚田の景観を損ねない工夫ができた。また、地域を挙げて遊歩道整備を行ったことで、今後の保全活動や法人化への関心が高まったようで、問い合わせや、新NPO法人への参加希望も予想を越える人数が集まってきている。

※自己評価【A】

【理由】多くの地域住民が整備作業に関わりながら事業を遂行できた。また遊歩道の整備をきっかけに、本会発足20周年やNPOの立上げを広く知らせることができ、地域内外の方によこね田んぼを意識づけることができ、既にオーナーの継続希望、NPO法人への入会希望を受けている。

今後の取り組み

発足20周年を迎え、維持の為今日まで尽力をいただいた方々に感謝をすると共に、新しい世代への拡充、引継ぎの時代も迎えていることを痛感している。そこで、環境保全を最優先課題にしながら開発をし、次の世代を迎えやすい環境、組織、仕組みの構築が今必要になってきている。今後よこね田んぼを観光資源として活用していくことも重要と考え、展望台につづいて第二弾の整備事業が完成した。現在、散歩や遠足、ランナーズヴィレッジコース、撮影など今までになかった利用が始まっているので、拡大しながら、ツアーガイドを備えたり、管理人を置くなど地域住民の就労の場にもしていく。また、米、米製品、酒販売をできる体制にし、本会管理以外の地権者のよこね米も買い上げができるようにし、更に地域の方の活力へとなるようにする。